

### 3 校内研修

#### I 研究主題

**「生きて働く力」の基盤となる、「新しい時代に必要とされる資質・能力」を育む**  
～ 学びの質を高める「3つの視点」を踏まえた、「算数科の授業改善」を通して～

#### II 研究主題設定の理由

##### ■ 1 社会的な要請

近年、急激な社会の変化に伴い、教育の在り方についての見直しが迫られ、各方面から改善を求める提言がなされている。特に、学校教育に於いては、子ども達が主体的に生きていくために必要な「思考力・判断力・表現力」等や、学ぶ意欲などを含めた「確かな学力」を身に付けて、生涯に亘って主体的に学び続け、問題を解決していくことができる力の育成が期待されている。

こうした期待に応えるため、今の学校教育に求められている喫緊の課題は、激変する知識基盤社会に「受け身」で対処するのではなく、自ら課題を発見し、他者と協働して、その解決を図るための『生きて働く力』を育成することである。

その為には、子供達に「何を教えるか」だけでなく、「どのように学ぶか」という視点が重要となってくる。また、「学びに向かう力や人間性」を育むことも一層重要視されている。

##### ■ 2 本校の実態

本校は、平成29年度から2年間、文部科学省の指定を受けて「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」「特別な教科 道徳」についての研究と実践を行ってきた。「考える道徳」をともに学び、「児童が、自己の生き方を深く考えることができる道徳科の授業づくり」を中心に研究を深める事ができ、一応の成果をみた。

##### ● 児童の実態

本校の児童は、比較的「自己肯定感」は高いほうである。この結果は、全国学力・学習状況調査の質問紙（6年生）や町教育委員会主管の「標準学力調査（2～5年生）」の結果等から出てきたものである。今、学習している教科の大切さや、将来への繋がりについても過去数年間に亘って良い値（県や全国を上回る）が出ている。

学習への取組は意欲的であるが、じっくり考えたり、見つめたり、他との意見交換や対話などが乏しかったり、苦手な傾向にある。また、基礎・基本の定着に個人差が見られ、二極化の様相が顕在化してきた。

##### ● 保護者の実態

学習面では、「考える力」「表現力」「根気」を欲しいと願っている。また、道徳教育の成果もあり、「思いやりの心」も生活面では、引き続きはぐくんで欲しいと願っている。家庭学習の習慣化や保護者コメント等へは、負担感を感じている保護者もいる。基本的には、授業参観への参加率やPTA活動への参加、学校行事等への参加・協力に関しては意欲的である。

##### ● 教師の使命感

教職員には、専門職としての深い知識、広く豊かな教養、実践的な指導力、そして教育者としての強い使命感と教育愛がもとめられる。そして、それらを身に付けるためには、継続的な研究と不断の修養に努めなければならない。

教職の  
専門性が  
求められる  
理由

- ◆ 児童生徒の全人格・個人的な発達を促す人間尊重の教育を推進
- ◆ 教育内容や教育方法の多様化と厳選が求められる
- ◆ 生涯学習社会と教育に対する機会の拡大
- ◆ 生活環境の変化や子どもの抱える諸問題の増加、新たな教育課題への対応

教職の  
専門性の  
内容

- ◆ 教科に関する専門的な「知識・技能」
- ◆ 幼児児童生徒の発達に関する「専門的な知識」
- ◆ 広い教養と豊かな人間性
- ◆ 子ども一人一人のニーズに対応する「専門性」「知識・技能」
- ◆ 人間教育の基本的原理に基づいた広い視野と識見

### ■ 3 研究主題の設定

#### ●教育界の動向

20世紀型の学力は、多くの場合は正解があり、より正確に より早く適応する能力を測定していた。しかし乍ら、21世紀型の学力は、他者と関わりながら情報を的確に入手・分析・統合し、実生活に結びつけることができるか。また、新しいアイデアを創出し、より良い持続可能な社会を構築する資質・能力や態度を育むことが求められている。

また、新しい時代に必要とされる「資質・能力」、つまり

①生きて働く「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力等」、③「学びに向かう力、人間性」等を育むことである。学校Ver.01＝「勉強」の時代であった。次に、学校Ver.02＝「学習」の時代、そして学校Ver.03＝「学び・育ち」の時代へと向かっている。

#### ●県教育委員会の学力向上推進プロジェクトⅡ

##### ①「自己肯定感の高まり」

学校教育による自己肯定感を育む支援と学力の保障を行うこと、「自分は価値ある存在である」「自分に自信がある」「自己存在感を与えること」「共感的な人間関係を育むこと」「自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること」などが盛り込まれている。

##### ②「学び・育ちの実感」

子どもが「何を理解し、何ができるか（生きて働く『知識・技能』の習得)」、「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成)」、「どのように社会・世界と関わり、より良い生活を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養)」など、新しい時代に必要となる3つの資質・能力を育むことが、学校教育の喫緊の課題である。

##### ③「組織的な関わり」

中央教育審議会（答申）『チームとしての学校の在り方と今後の改善方策』の中に於いて、「チーム学校像」として、「校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内外の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供達に必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校」と定義されている。

以上のことを踏まえ、これまでの研究成果の積み上げの上に立ち、子どもが主体的に学ぶ力を身に付ける学習指導の在り方や、指導法の改善及び教育課程の適切な在り方を究明し、すべての教師が『めざす授業像』を共有化し、「チーム本小」として協働実践することによって、新しい時代に必要な資質・能力である①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」、③「学びに向かう力・人間性」を育むことに繋がると考え、本研究主題を設定した。

## Ⅲ 研究の目標

- (1)「チーム本小」として全ての教職員が、あらゆる教育活動に於いて、子供達の「自己肯定感」「自己存在感」「自己有用感」等をはぐくむ活動を展開する。
- (2)「授業改善」は、「主体的・対話的な深い学び」を心がけ、探求的活動・合科的活動・横断的な活動を目指して、検証授業や教材研究に不断の努力を行う。
- (3)「組織的な関わり」を大切にし、先ずは学年同士、低学年部・高学年部、校内・校外など専門分野を有する機関と連携を図りながら、研究を進めていく。

## Ⅳ 研究の仮説

- (1)「自己肯定感」を育むことで、子供達は「自信」を持って、「自主的・自発的」に物事に取り組む姿勢や態度が身に付くであろう。
- (2)「学び・育つ」為には、「主体的・対話的な深い学び」の基で、「学び合い、認め合い、高め合う」教育活動を展開することによって育まれていくであろう。
- (3)「組織的な関わり」の中で、「学校力」を組織的に高めることによって、教師一人一人の「教師力」が強固に高まり、それが 児童一人一人の「人間力」向上に繋がるであろう。

## V 研究の方針

### 1 基本的な方針

- (1) 校内研修を通して、学校教育目標の具現化を図る。
- (2) 校内研修を通して、教育課程の改善を図る。
- (3) 校内研修を通して、子供の望ましい発達を促し変容を図る。
- (4) 校内研修を通して、教師の指導力の向上を図る。
- (5) 研究主題や方針について全職員が共通理解し、協働で研究を進める。
- (6) 研究は「知育部会」、「全体研究部会」、「学年部会」に於いて研究を推進する。
- (7) 一学期と二学期にそれぞれ1回ずつ指導主事を招聘した検証授業を実施する。
- (8) 授業を通じた実践的な研究を進め、児童の生きる力の育成へ還元できるようにする。
- (9) 県や地区、本町の推進する「学力向上推進」と連動した取組を行う。

### 2 具体的な方針

#### STEP 1 【一学期】『授業スタンダード』(めざす授業像)

- (1) 本校の『授業スタンダード』(めざす授業像)を、4～5月で共通理解する。
- (2) 授業の流れ「めあて・まとめ」「みとり(形成評価)」「支援活動」の流れを確認する。
- (3) ノートの書き方、板書計画の仕方など「共通理解を図る。」→「授業びらき」にて。
- (4) 一学期までに、全職員「互見授業」を実施し、「めざす授業像」を共有化する。
- (5) 互見授業などは、授業をカットせずに1～5校時の間で実施する。
- (6) 夏季休暇中には、校外の研修会(県立教セ、北部教セ、等)にも積極的に参加する。

#### STEP 2 【二学期】『効果的指導法の確立』

- (1) 授業改善の中で、「学び合い、認め合い、高め合う」授業形態(自己肯定感を高める)
- (2) 授業改善の中で、「アクティブ・ラーニング」の授業形態も取り入れ、自主性を養う。
- (3) 検証授業を、低学年・中学年・高学年で「リレー方式」で実施する。
- (4) 外部から指導主事や講師を招聘して、理論研や検証授業などを実施する。
- (5) 指導主事を招聘する検証授業は5校時目、授業研究会は6校時目に実施する。
- (6) 夏季休暇中に、体験的な活動を通して「修養(精神・人格・素養)」時間も確保する。

#### STEP 3 【三学期】『成果と課題の検証, 次年度計画』

- (1) 研究仮説・研究主題・教育目標へと、子供達の変容を以て成果を検証する。
- (2) めざした目標と実態との落差の中から、次なる課題を確認する。
- (3) 評価は、客観的指標や数値などを以て表現し、次年度計画へ反映させる。
- (4) 成果は、客観的数値のみではなく、子供達の変容や学びや成長を以て確認する。
- (5) 県学力向上プロジェクトⅡに沿って、次年度の教育課程編成の研修も実施する。

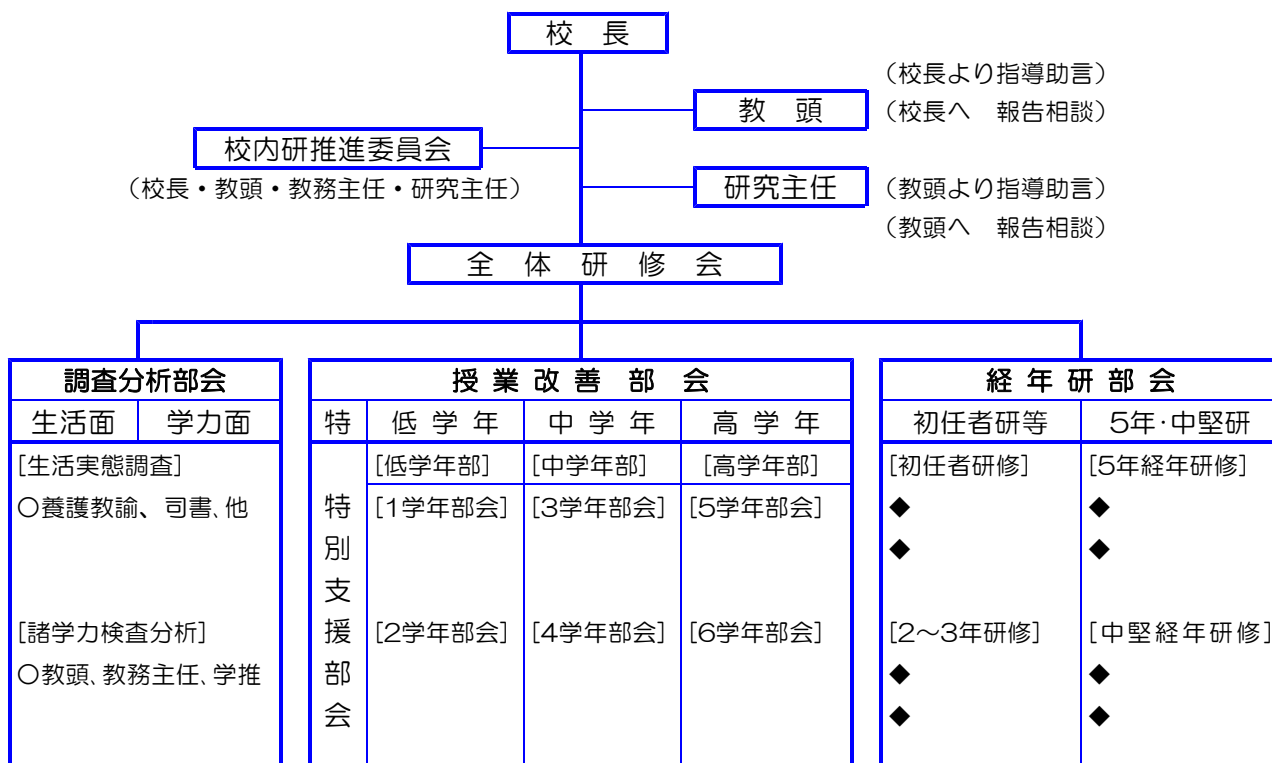
#### 研 究

●研究とは、「よく調べ考えて真理を究めること」であり、教育の新しい内容や方法等を発見し、創造することです。教師は、子どものよりよい変容を目指した客観的、実証的な研究を進めていくことが大切です。

#### 修 養

●修養とは、「精神を錬磨し、高度の人格を形成するよう努めること」であり、教職に関する知識を高め、品性を磨くように努めることです。教師は、豊かな人間性、社会性などを高めるよう、自分自身を磨く努力をすることが大切です。

## VI 研究組織図



※ 専科（理科、音楽、体育、外国語）や通級担当者、加配教員は、バランスを見て学年配置を行う。

| 部会名        | 役割 & 内容  | 担当・メンバー  |
|------------|--|--|
| ① 総括       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■校内研集会の総括、及び 指導助言を行う。</li> <li>■講師依頼や指導主事招聘の調整 及び 依頼文書発送</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■校長</li> <li>■教頭</li> </ul>   |
| ② 調整       | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆校内研計画・立案、研究の推進、運営、調整</li> <li>◆各学年部、経年研修部、調査分析部との連絡・調整</li> <li>◆校内研の位置づけと研修時間の確保、調整</li> </ul>  | ◆研究主任・教務   |
| ③ 校内研推進委員会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●校内研修計画の作成・運営・実施</li> <li>●各学年、各部会との調整・連絡</li> <li>●算数科の授業改善、理論研究、教材研究に関すること</li> <li>●その他、必要な教職員研修や研究推進に必要なこと</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆校長、教頭、教務</li> <li>◆研究主、学年主</li> <li>◆特別支、学推主</li> </ul>  |
| ④ 全体研修会    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●校内研のテーマ、仮説、内容、計画、等の「共通理解」</li> <li>●互見授業、検証授業、公開授業、等の「共通実践」</li> <li>●授業改善と「学力（人間力）向上」等はリンクして実施</li> <li>●夏季研修にて、「プログラミング研修」を実施する</li> </ul>   | ◆全職員   |
| ⑤ 各部会      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学習環境の整備充実、学習規律の徹底指導を図る</li> <li>●指導案の作成、分析、考察、対応策の検討・実施</li> <li>●実態把握（調査・アンケート）と分析、考察、検討会</li> <li>●算数科及び「本小授業スタンダード」の確認と実践</li> <li>●授業研究会の運営・記録・記録写真などを分担</li> <li>●各部会に於ける、検証結果の「まとめ」「検討」「収録」</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆低学年部会</li> <li>◆中学年部会</li> <li>◆高学年部会</li> <li>◆特別支援部会</li> <li>◆調査分析部会</li> <li>◆経年研部会</li> </ul> |



## VII 研究計画

| 月  | 日  | 曜日 | ST<br>EP                               | 研 修 内 容                                      | 担 当 者<br>提 案 者                   | 招 聘 指 導 主 事                     |           |
|----|----|----|--|--|----------------------------------|---------------------------------|-----------|
|    |    |    |  |  |                                  | 国 教 事 主 事                       | 町 教 委 主 事 |
| 04 | 03 | 金  | ① 授業スタンダード期（授業の型づくり）<br><br>適宜、調整をして実施 | ◆本年度の校内研修計画確認<br>（研究主題、副主題、設定理由、仮説、組織、年間計画等） | 研究主任                             |                                 |           |
|    | 22 | 水  |  | ◆本校の「めざす授業像」の確認<br>『授業スタンダード』共通理解            | 研究主任                             |                                 |           |
|    |    |    |  | ●<互見授業 1>「授業 びらき」                            | (A )                             | リ<br>レ<br>ー<br>方<br>式<br>授<br>業 | 校長・教頭・学年  |
|    |    |    |  | ●<互見授業 2>「授業 単元中間」                           | (B )                             |                                 | 校長・教頭・学年  |
|    |    |    |  | ●<互見授業 3>「授業 単元後半」                           | (C )                             |                                 | 校長・教頭・学年  |
| 05 | 18 | 月  |  | ●<互見授業 4>「授業 〇年 算数」                          | (D )                             |                                 |           |
|    | 20 | 水  |  | ●<互見授業 5>「授業 〇年 算数」                          | (E )                             |                                 |           |
| 06 | 17 | 水  |  | ※ 県学推支援訪問                                    | 延期・中止                            |                                 |           |
|    |    |    | ●<互見授業 6>「授業 〇年 算数」                    | (F )   | (〇〇主事)                           | (〇〇主事)                          |           |
|    |    |    | ●<互見授業 7>「授業 〇年 算数」                    | (G )   |                                  |                                 |           |
|    |    |    | ●<互見授業 8>「授業 〇年 算数」                    | (H )   |                                  |                                 |           |
| 07 | 15 | 水月 | ② 効果的指導法の確立期（理論研）                      | ◆一学期の評価・反省                                   | 研究主任                             |                                 |           |
| 08 | 25 | 火  |  | ◆（理論研1）<br>◆（理論研2）<br>◆（修養研1）                | 研究主任                             | (県立教七)                          | (外部講師)    |
| 09 | 10 | 木  |  | ●<検証授業 1>「授業研1年 算数」                          | (日向子)                            | (比嘉主事)                          | (〇〇主事)    |
|    |    |    |  | ●<検証授業 2>「授業研4年 算数」                          | (真紀子)                            |                                 | (〇〇主事)    |
| 10 | 21 | 水  |  |  |                                  |                                 |           |
| 11 | 17 | 火  |  | ●<検証授業 3>「授業研〇年 算数」                          | (ウ )                             | (〇〇主事)                          | (〇〇主事)    |
| 12 | 16 | 水  |  | ◆二学期の評価・反省                                   | 研究主任                             |                                 |           |
| 01 | 20 | 水  |  | ③ 成果と課題<br><br>検証期                           | ◆（理論研1）「調査・分析」<br>◆（理論研2）「成果・課題」 | 調査分析部<br>全職員                    |           |
| 02 | 16 | 水  | ◆（理論研3）「次年度計画」                         |  | 研究主任                             |                                 |           |
| 03 | 10 | 水  | ◆（理論研4）「研究まとめ」                         |  | 研究主任                             |                                 |           |